

# 磐城時報

福島縣石城郡平町福屋町十四番地  
印刷 磐城時報社  
電話 二二二  
代金 一月一元 三月三元 半年六元 一年十二元  
廣告料 一行十四字 一日一元 三日三元 五日五元 十日十元 一月二十元 三月六十元 半年九十元 一年一百八十元  
印刷 磐城時報社  
電話 二二二  
代金 一月一元 三月三元 半年六元 一年十二元  
廣告料 一行十四字 一日一元 三日三元 五日五元 十日十元 一月二十元 三月六十元 半年九十元 一年一百八十元

## 内親王御誕生

### 三十日午前六時十五分

皇后陛下には三十日午前六時十五分宮城産殿に於て内親王を御安産遊ばされた。

## 平町で賀表捧呈

内親王御誕生の報に接した平町では急遽町會を招集した上伏見町長の名を以て宮内大臣並に皇后太夫宛夫々賀表を捧呈する等である。

## 株主總會に附議する

## 磐銀單獨開業案

### 開業愈々確實となる

休業中の平町磐城銀行の復活にこし年賦拂ひをなすものである。ついで今日まで巷間種々なるが、株主間の意欲を聞くに、噂が傳へられてきたが、過般同の整理案は異議なく承認される。行重役の作製した整理案は大体模様であるから、磐城銀行の開業に於て大蔵省で承認する處も今度愈々具体化するに於て、白井家の私財十萬圓の提供も至つたわけである。

## 陪審員資格者激減

### 平町では九月一日現在における

平町では九月一日現在における平町内陪審員資格者の調査を果して見ると、陪審員資格者激減の事實が明らかである。本年度の有資格者は五百廿八名、前年度の五百八十七名に比較すると、減少の割合は約一割に達している。これは不景気によるものと言はるが、磐城村の頭初豫算五萬四千七百六十四圓の内二千五百四十六圓減の二分一厘、鹿島村の一萬六千三百五十五圓の内六百六十一圓減二分五厘の僅の減額であつたことは既報の如く、二十四日には川部村、内郷村が決定したが、川部村がやうやく九分三厘に達したのみである。

## 石城兒童研究會

石城兒童研究會は十月五日午後二時から平第二小學校後法室で總會を開き役員の改選を行ひ業務會計の報告其他に付協議する等となつた。

## 雜木廿町歩競賣

來町磐城造林會社では一日午前十時から本社において六ヶ所約三十町歩の雜木の競賣を行ふ事となつた。

## 築港と鐵道實現促進運動

小名濱有志者上京して昭和五年豫算に六十五萬圓を計上する事及び平小鐵道布設促進について主務省に陳情する事になり、鈴木町長以下町會議員は三十日午前七時泉驛發列車で上京した。

## 緊縮豫算

石城郡内の町村豫算一割削減實行豫算編成については訓示にもつき目下大馬力をかけ各町村共編成中であるが、出来上がつたのは磐城村の頭初豫算五萬四千七百六十四圓の内二千五百四十六圓減の二分一厘、鹿島村の一萬六千三百五十五圓の内六百六十一圓減二分五厘の僅の減額であつたことは既報の如く、二十四日には川部村、内郷村が決定したが、川部村がやうやく九分三厘に達したのみである。

## 民政議員

水道擴張工事に就て

## 定員二名を超過した湯本區會議員選舉

### 愈々明日に迫る

石城郡湯本町大字湯本區會議員選舉は十月一日に迫つたが、夜までには十四名に達した、有資格者は定員十二名に對し候補者總數二千七百七十八名中一千二百名で無競争で選舉が行はれた。入山炭礦關係者が占めるものと思はれてゐた處、同區に候補者を出し全部當選の意氣込村玉山炭礦に開き會長推薦、役員改選後午後から松茸狩を行ふ等であるが、郡農會から大山技師臨席する。

## 同盟會總會

磐城青年同盟會第四回總會は十月三日午前十時から石城郡大野村玉山炭礦に開き會長推薦、役員改選後午後から松茸狩を行ふ等であるが、郡農會から大山技師臨席する。

## 組合總會

日本労働總同盟常務炭礦坑夫組合委員會は二十九日午後一時から石城郡内郷村組合事務所にて、廣瀬組合長外四十三名出席、廣瀬氏が各種の報告をなし、同盟關係同業大會に出席する人選の結果折笠、中野、黒澤、廣瀬、後藤外二名と決定、組合主事に藤原房夫を任命、執行委員四名を増員し終つてその他各種事項を協議した。

## 好問果樹總會

石城好問果樹總會主催の品評會授賞式は十月三日同村役場で舉行し終つて果樹組合總會を開く等であるが、郡農會から大山技師臨席する。

## 秋窓漫語

### 讀書の事

田舎の文學青年—政治的青年をも含めて—にとつては讀書が唯一の精神的糧であり孤獨なる彼等の享樂的な慰安でもあつたといふてよいであらう。田舎の文學青年に共通的な淋しさと悩みと悲しみはと言へば、彼等が心から共鳴して談笑し得るやうな文學的友人の稀なことだ、のみならず彼等が特有の旺盛にして激進たる心も、夢想的な野心に馳せたりを表現してゐた處で、こ

## 鮫川疏水の復活は國家にとつて大利益

### 古川、野崎、若松各縣議が小柳知事に陳情

石城郡植田町外一町四ヶ村に灌漑平町會議員野崎滿藏、馬目雅治、既する鮫川疏水復活問題は屢報永山富廣、佐藤若次郎外數氏はの如くであるが、其後關係町村二十九日午後七時から平町町並に地方の有志が實現に對し奔走、民政黨俱樂部に集合し平水水道走中の處、過般小柳知事が來郡擴張工事に關し種々打合せをなしたので比佐代議士、吉川、若松、野崎各縣議は知事を水路取入口に案内して視察せしめた上左の如き陳情をなし實現運動を試みた。

## 緊縮豫算

石城郡内の町村豫算一割削減實行豫算編成については訓示にもつき目下大馬力をかけ各町村共編成中であるが、出来上がつたのは磐城村の頭初豫算五萬四千七百六十四圓の内二千五百四十六圓減の二分一厘、鹿島村の一萬六千三百五十五圓の内六百六十一圓減二分五厘の僅の減額であつたことは既報の如く、二十四日には川部村、内郷村が決定したが、川部村がやうやく九分三厘に達したのみである。

## 民政議員

水道擴張工事に就て

